

たちばな学び館だより

2025年 3月号 発行：たちばな学び館・高崎地域生活課

毎月第3日曜日は、「家庭の日」です。

ご家族お揃いで読書はいかがですか。



たちばな学び館所在地

〒889-4592

都城市高崎町大牟田 1150 番地 1

電話とファックス 0986-45-8181

たちばな学び館は、小さな図書館です。

たちばな学び館は、高崎総合支所 2 階にあります。

どなたでもお気軽にご利用いただける図書室です。

土曜日・日曜日は、東側の警備員室前 出入口をご利用ください。

【休館日】

毎週月曜日、祝日、12月29日～1月3日、6月1日～6月15日



【開館時間】

午前9時30分～午後1時、午後2時～午後5時
(午後1時～午後2時は閉館です。)

【館外貸出】

一度に3冊まで、うち新刊1冊(未返却含む)、
期間は2週間です。



※宮崎県立図書館・都城市立図書館の本も、たちばな
学び館で予約・返却ができます。



《2025年 本屋大賞 / ミネート作 10 選》

『アルプス席の母』
『カフネ』
『禁忌の子』
『恋とか愛とかやさしさなら』
『小説』
『死んだ山田と教室』
『spring』
『生殖記』
『成瀬は信じた道をいく』
『人魚が逃げた』

早見 和真
阿部 暁子
山口 未桜
一穂 ミチ
野崎 まど
金子 玲介
恩田 陸
朝井 リョウ
宮島 未奈
青山 美智子



◎本屋大賞とは、全国の書店員が自分で読んでお薦め本を選び投票で決める賞です。
ノミネート作品の中から大賞が選ばれますが、今年は何の作品になるのでしょうか！？
たちばな学び館にも全作品揃っていますので、ぜひ手にとって読んでみてくださいね♪



新刊案内

『ヒポクラテスの困惑』 中山 七里／祥伝社

パンデミックに付け込む悪意がセレブを喰い殺す。

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、一人の女性が埼玉県警の古手川を訪ねる。彼女は、オンライン通販会社の創業者で現代の富豪、そして前日にコロナ感染症で急逝した萱場啓一郎の姪だという。大金を払って秘密裡に未承認ワクチンを接種していた啓一郎がコロナで死ぬはずはない、本当の死因を調べてほしいと頼まれた古手川は、浦和医大法医学教室に解剖を依頼。光崎教授が見出したのは、偽ワクチンによる毒殺の可能性だった――。



『目には目を』 新川 帆立／角川書店

なぜ少年Aは殺されたのか？

罪を犯した「本当は良い子」の少年たち。奪われた命が、彼らの真実を浮かび上がらせる。

重大な罪を犯して少年院で出会った六人。彼らは更生して社会に戻り、二度と会うことはないはずだった。だが、少年Bが密告をしたことで、娘を殺された遺族が少年Aの居場所を見つけ、殺害に至る。人懐っこくて少年院での日々を「楽しかった」と語る元少年、幼馴染に「根は優しい」と言われる大男、高IQゆえに生きづらいと語るシステムエンジニア、猟奇殺人犯として日常をアップする動画配信者、高級車を乗り回す元オオカミ少年、少年院で一度も言葉を発しなかった青年。かつての少年六人のうち、誰が被害者で、誰が密告者なのか？

『任侠梵鐘』 今野 敏／中央公論新社

義理人情に厚いヤクザの親分・阿岐本の元に、一風変わった経営再建の話が次々と持ち込まれ、代貸の日村は振り回されていた。今度は神社と寺だというのが……。



《こどものほん》

- ・おぼけずし / 荻田澄子・柴田ケイコ
- ・ノラネコぐんだん おりがみパンやさん / いしほしなおこ・工藤ノリコ
- ・月のサバイバル / ホンジェ Chol

などなど…♪



『イクサガミ』シリーズ

今村 翔吾／講談社文庫

時は明治11年、深夜の京都・天龍寺。

莫大な賞金を得る機会を与えられた腕に覚えのある志士たち292名がこの地に群がった。告げられたのは、各自に配られた木札を奪い合い、東京に辿り着いたものに賞金が与えられる〈こどく〉という名のゲームのルール。主人公・嵯峨愁二郎は、妻と子を病から救うため命がけの遊戯ゲームへの参加を決意するのだった――。



他にもたくさん本が入っていますので、お気軽にお越しください♪